



TITLE:

多数の蔓脚類が着生したイボショウジンガニ(節足動物門, 十脚類)

AUTHOR(S):

久保田, 信; 山口, 寿之

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 多数の蔓脚類が着生したイボショウジンガニ(節足動物門, 十脚類). 南紀生物 2000, 42(2): 147-148

ISSUE DATE:

2000-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188282>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

多数の蔓脚類が着生したイボシヨウジンガニ (節足動物門, 十脚類)

久保田 信*・山口 寿之**

Shin KUBOTA and Toshiyuki YAMAGUCHI: *Plagusia tuberculata* (Arthropoda, Decapoda) on which many cirripeds attached

インド・太平洋に分布するイボシヨウジンガニ *Plagusia tuberculata* LAMARCK は、わが国では房総半島以南に普通に見られる南方系のシヨウジンガニ類の一種である(武田, 1994; 和田, 1995)。イボシヨウジンガニは外洋に面し、荒波の打ち寄せる岩礁海岸に生息し、動きもすばやく、普通は甲上に多数の付着生物が着生していることはない。ところが、和歌山県白浜町で体表の各所に主として蔓脚類が着生・成長した複数個体を発見したので報告する。

多数の蔓脚類などが着生したイボシヨウジンガニ

1. 雄個体 (図1)

採集地 和歌山県白浜町番所崎北浜 (打ち上げ)

採集日 1999年5月9日

付着状況 背面には、甲と十本の脚にアカフジツボ *Megabalanus rosa* (PILSBRY) とイワフジツボ *Chthamalus challengerii* HOEK とを合わせて103個体 (2種は甲背面に最も多数が付着: 36個体)、加えてエボシガイの一種が鉗脚と1本の歩脚に計2個体付着。その他、ヒドロ

虫類ウミンバ科の一種と緑藻が甲に着生。腹面にはフジツボ類2個体とエボシガイの一種の1個体が着生。これら着生生物のほとんどが生存。イボシヨウジンガニに肉質部はなく、腐臭もなかった。新鮮な脱皮殻と思われる。

2. 雌個体 (図2)

採集地 和歌山県白浜町番所崎円月島側の磯 (潮間帯)

採集日 1999年5月16日

付着状況 背面にはアカフジツボとイワフジツボとを合わせて26個体 (右鉗脚のみ付着なし; 2種は甲背面に最も多数が付着: 14個体)。腹面にエボシガイの一種が1個体着生。着生生物のほとんどが生存。イボシヨウジンガニに肉質部はなく、腐臭もなく、新鮮な脱皮殻と思われる。なお、このイボシヨウジンガニには、左側の2本の歩脚が欠損していた。

考 察

上記2個体のイボシヨウジンガニともフジツボ類を中心とした多数の付着生物が着生し、アカフジツボは成体に近いサイズに育っていた。イボシヨウジンガニの生態

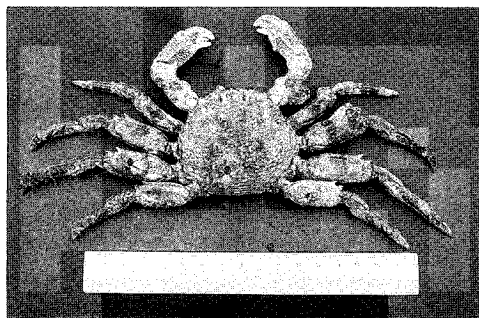


図1 和歌山県白浜町番所崎で発見された多数の蔓脚類が着生したイボシヨウジンガニ雄個体 (背面)

Fig. 1. Male of *Plagusia tuberculata* from Banshozaki, Shirahama, Wakayama, on which a large number of cirripeds attached (dorsal view).

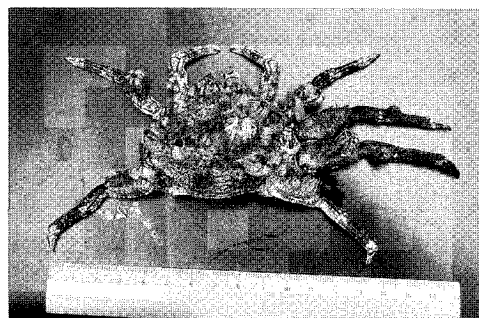


図2 和歌山県白浜町番所崎で発見された多数の蔓脚類が着生したイボシヨウジンガニ雌個体 (背面)

Fig. 2. Female of *Plagusia tuberculata* from Banshozaki, Shirahama, Wakayama, on which many cirripeds attached (dorsal view).

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

** 千葉大学海洋バイオシステム研究センター (〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33) Marine Biosystems Research Center, Chiba University, Yayoi-cho 1-33, Inage-ku, Chiba

からみて、背面への付着に対して、腹面では付着生物の定着・成長は難しいと思われる。これは、たとえ付着してもこすられるなどして脱落するか、成長が困難なためである。

上記の付着生物のうち、最大のアカフジツボ (10 mm) からみて、少なくとも数週間は脱皮が行われなかったものと推定される。また、イワフジツボの付着状況から、2個体とも潮間帯付近を徘徊していることが多か

ったものと推察される。

引用文献

- 武田正倫. 1994 : イボシ ヲウジンガニ. *in* 海辺の生きもの, 初版. p. 264, 山と溪谷社, 東京.
- 和田恵二. 1995 : シ ヲウジンガニ亜科. *in* 西村三郎編著, 原色検索日本海岸動物図鑑. p. 411, 保育社, 大阪.

